

の年平均気温と暖かさの指数について緯度との関係を図-3に示した。ここで暖かさ指数とは、月平均気温から5°Cを差し引いて1年(12か月)を積算した値である。年平均気温、暖かさ指数ともに緯度と極めて高い相関を示した。なお、調査地の各調査年次における平均気温は表-3に示す通り、1978年に比べて1980、1981年は冷夏であった。

以降の計画

次号以降次の項目について取り上げる予定である。

草型、稈・葉の形状、穂・小穂の形状、早晚性、発芽特性、生育特性、温度反応、暖地における種間差異。

参考文献

- 笠原安夫 1970. 雑草としてのヒエ属植物について. 日本雑草図説. 養賢堂, 東京.
- 宮原萬芳・沼川武雄 1976. ヒエ品種の青刈適性と飼料成分に関する一実験的考察. 東北農試研究速報 20.
- 永松土巳 1951. 水田野生ヒエの種生態学的研究 第4報. 日作紀 20,3-4.
- 農林省農業改良局研究部 1954. 水田雑草ノビエの防除に関する研究. 農業改良技術資料 47.
- 農林省草地試験場 1978. ヒエ属植物の分類と種・品種の特性に関する文献抄録. 草地試資料 12-16.
- 小原哲二郎 1937. ヒエの研究. 日作紀 9.
- 大井次三郎 1953. *Echinochloa* P.Beauv. ヒエ属. 日本植物誌, 至文堂, 東京.
- 大井次三郎 1962. 日本のヒエ属植物について. Acta Phytotax. Geobot 20.
- 藪野友三郎 1975. ヒエ属植物の分類と地理的研究. 雑草研究 20.

統計データから

令和3年産 原料用ばれいしょ・原料用かんしょ・てんさい・さとうきびの生産費

令和3年産の10a当たりの生産費(資本金子・地代全額算入)をみると、九州・沖縄を主産地とする原料用かんしょ156,626円、さとうきび149,014円に対して、北海道を主産地とするてんさい108,274円、原料用ばれいしょ100,304円と、前者の生産費が高い。

この傾向を経営概況からみると、1経営体当たりの作付面積については、さとうきび140.2a、原料用かんしょ115.3aに対して、てんさい、原料用ばれいしょはそれぞれ832.5a、636.2aと5~6倍も作付規模が大きい。加えて、10a当

り労働時間については、原料用かんしょ57.41時間、さとうきび37.67時間は、てんさい10.93時間、原料用ばれいしょ8.65時間に比べてより多くの労力を要している。

したがって、原料用かんしょ、さとうきびは10a当たりの費用のうちで、労働費の占める割合が最も高く、それぞれ56%、35%を占めている。一方、原料用ばれいしょでは農機具費、てんさいでは肥料費の占める割合が最も高い。

また、農業薬剤費は押しなべて物財費の15%を占めているが、さとうきびはやや低く10%程度となっている。(K.O)

表 令和3年産 原料用ばれいしょ・原料用かんしょ・てんさい・さとうきび生産費

区 分		単位	原料用 ばれいしょ	原料用 かんしょ	てんさい	さとうきび
10a 当たり	物 財 費	円	71,887	62,034	76,722	86,453
	うち					
	農機具費	〃	20,114	16,420	18,466	12,467
	種 苗 費	〃	16,454	3,473	4,186	5,259
	肥 料 費	〃	10,795	10,879	23,282	14,482
	農 業 薬 剤 費	〃	10,745	9,429	12,727	8,466
	労 働 費	〃	15,938	80,890	19,458	45,810
	費用合計	〃	87,825	142,924	96,180	132,263
	資本金子・地代全額算入生産費	〃	100,304	156,626	108,274	149,014
100kg 当たり	同 上	〃	2,415	6,374	1,513	2,491
経営概況	1 経営体当たり作付面積	a	636.2	115.3	832.5	140.2
	10a 当たり労働時間	時間	8.65	57.41	10.93	37.67
	10a 当たり収量	kg	4,146	2,457	7,152	5,981

農産物生産費統計 令和4年8月26日公表